

明延鉱山での操業は 8 世紀頃始まった。さまざまな金属が発見されたが、銅と錫が最も多かった。言い伝えによると明延は、東大寺にある有名な大仏に使われる銅の一部にも貢献したそうである。江戸時代(

1603－1867)と明治時代(1868-1912)の政府の管理の下で、明延鉱山は 1896 年に三菱会社に売却された。1987 年に閉鎖され、2 層目以下の坑道はすべて水浸しになった。しかしそれより上の層は教育上の目的のため保存された。ガイド付きツアーで行き易くなり、これらの地域は鉱山が操業していたときとほぼ同じ状態である。トロツコの軌道と重々しい鉱山の機械類もまた展示されている。